

令和 7 年度 第 1 回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要)

日時 令和 7 年 8 月 1 日 (金)

午後 1 時 30 分～

会場 帯広市役所 10 階 第 3 会議室

○ 出席委員 (12 名)

兼子委員、河村委員、兒玉委員、佐藤委員、
島勝委員、高田委員、得字委員、中條委員、
中村委員、松原委員、水上委員、米澤委員、

※欠席者 3 名

○ 事務局 安達副市長、篠原都市環境部長、大橋都市環境部参事、
岡田環境室長、櫻田清掃担当次長、桑嶋清掃事業課課長補佐、
福田管理係長、石川主任、西本主任専門員

○ 傍聴等 報道関係者 2 名

1 開会

2 委嘱状交付

3 副市長挨拶

4 委員自己紹介

5 帯広市廃棄物減量等推進審議会について

- ・帯広市廃棄物減量等推進審議会の目的、法的位置づけ、これまでの経過と今期の予定等について事務局より説明。

6 正副会長の選出

- ・帯広市廃棄物の処理及び清掃に関する規則第3条第1項に基づき、委員の互選により会長に得字委員、副会長に兼子委員が選出された。

7 正副会長挨拶

8 議事

(1) 報告事項

- ・令和6年度帯広市一般廃棄物処理実施計画に基づく取組の評価について、事務局より説明。

○意見・質疑

委 員)

2点質問がある。道内主要10市との比較の「一人一日あたりの排出量」で札幌市が随分と少ない。あと、リサイクル率では、千歳市が年度によって違いがあるので、各市によって傾向に違いがあるのか、また、行政の進め方によって結果が違うのか、それともライフスタイルに違いがあるのか、その分析はしているか。続いて、概要版の資料から一人一日当たりの排出量は順調に減少しているが、最終処分量が横ばいでこのままだと計画通りにいかないのではないかと思いますので何か対策はあるのか、実行できるプランがあるのかお聞きしたい。

事務局)

リサイクル率については、苫小牧市が30%と多いが、これは道内主要10市で唯一製品プラスチックを資源として分別回収を行っているためと捉えている。帯広市は製品プラスチックを燃やさないごみとして集めている。このことで違いがある。全体的なことと言えば資源として集めているものを燃やさないごみとして集めている都市もあるということで差が出てきている。

また、最終処分量については資源物として集めたものが汚れて資源化できないものがあることなどが、最終処分量が減らない一因である。資源として出すものはなるべくきれいにしてお出ししてほしいと広報周知をしていくことが肝要と考えている。

委員)

今の回答で苫小牧市が製品プラスチックを資源として回収し、リサイクル率が高いので、帯広市も真似できればいいのかなと思うが、何か真似できない理由というものがあるか。

事務局)

現在、資源物はリサイクルプラザに集められているが、複数の市町村が搬入しているものであり、製品プラスチックを資源化しようとする新たな投資をして設備を変更しなければならず、帯広市単独で変更できるものではない。

会長)

現在の製品プラスチックの処理方法はどのようになっているか。

事務局)

燃やさないごみとして破碎処理をして埋め立てている。

会長)

現在建設中の新中間処理施設に搬入するようになると最終処分量とかりサイクル率はどのように変化していくと予想されるか。

事務局)

一人一日あたりの排出量は減少してきているのと人口が減ってきているのでその部分での減少は考えられる。一方では世帯数が徐々に増えてきているので増える事情はあるが、全体でみると減ってくると思われる。新しい施設ではそういったことも考慮しながら処理量を推計する作業を行っていて、それに基づいて建設をしている。

その他に、処理場は災害時の廃棄物処理という重大な役割があり、災害時にも耐えられる設計を行って、新しい施設の建設を行っているところである。

(2) その他

ごみ排出に係る負担軽減について、事務局より説明。

会 長)

各委員の地域における、ごみ出しやステーションの維持管理などについて、現在の状況や課題認識などを、一人ずつご発言いただきたい。

委 員)

燃えるごみの日は皆さん気を付けているのでカラスなどには荒らされないが、資源ごみの日はカップ麺の容器などが飛散している。最近は良くなってきたが一時期は毎回飛散していた。きちんと容器を洗い、しっかりネットを掛ければ済むことなのだろうけどプラのマークが付いていれば汚れても出していた人がいたんだろうと思う。自分でもプラマークの物で紙が剥がれない物はそのままだと出しているのかごみにして出した方がいいのか悩むことがある。出し方が明確に分かるようになっていけばもう少し出しやすくなるのではと思う。出し方を知らないためにカラスなどに荒らされていると思うので、さらに啓発活動が必要と感じる。特に町内会に入っていない方が出し方を知らないと思うので、そのような方に届くような啓発が必要だと感じる。

委 員)

ごみステーションの除雪が年々困難になっているように思う。今年も2月に大雪が降って、ごみステーションにごみが置けない状態となった。近所の方と除雪をしたが、いつも特定の人で除雪をしているよねという話になり、そこを見直すべきと思った。あとネットのかけ方が良くなってカラスに荒らされるので、町内会に加入・未加入にかかわらず周知すべきと思う。私の世代より若い

人は SNS などの媒体を使い周知していくのが良いと思う。

委 員)

私のところは金属製のごみステーションだが、古いので町内会の物なのか不明。ネットを掛けていてもカラスにやられてしまう。その時は皆で清掃している。また、近くにマンションがあり、その住民が排出日を守らずに出すので、いつもごみが入っており、排出日に出そうとしても入れられない状態になっている。最近は貼り紙をして注意喚起をしているが改善はされないなので、他に良い方法を探っている。

委 員)

私のごみステーションは溢れていることが多く、網に入りきらない状態になっているのでカラスに狙われやすいと思っている。また、職場の方に聞くと大型ごみを出せる日を増やしてほしいと言われる。若い方だとくりりんセンターに自分で運べるが、年配の方だと大変なので、資源の日のような出せる日を増やしてほしいと言われる。

委 員)

私の所は以前にはカラスの被害がひどかったけれどネットを二重にしたり、重石を置いたりしてカラスによる被害はなくなった。しかし、町内会に入っている人はごみの分別はきちっとしているが、未加入の人は排出日を守らないので残されている事があり、今はそれが問題になっている。

委 員)

私は単身赴任によるアパート暮らしで、帯広に来た時に分かりやすいパンフレットを貰い、それを見た時は分別の数が多いと思った。ごみステーションの場所は教えてもらったが、誰が管理しているのか分からずに使っており、市の方で教えていただければよいと思うので、周知をお願いしたい。また、私の所のごみステーションは箱型で蓋が付いていてカラスが寄っているのを見たことがなく、私の使っているごみステーションに問題があるとは思っていないが、私の知らないところで誰かが綺麗にしてくれているかもしれないとも思っている。他市との比較で函館、小樽、室蘭、釧路、苫小牧と港町はごみが多く、観光客の影響なのかその辺を分析して教えていただきたい。あと、函館は戸別回

収なので便利だと思うが、そうなるとごみが多くなると思うので、メリット・デメリットのバランスを考えていただきたい。

委 員)

私の家の前にごみステーションがある。昔は問題なかったが、ある時、3軒ほど引っ越してくる方がいて、ごみステーションがあふれ、飛散も酷くなり清掃が大変だった。その時に町内会長に大きなごみステーションを作ってもらい問題はなくなった。しかし、先ほどの方もおっしゃっていたが大雪の時の除雪は私の所が一番近いので夫が除雪機で行い、皆が置けるようにしている。仕方がないと思ってやっている。

委 員)

私の住んでいる所は戸建てが多く、皆さんルールを守って使っていて問題はない。私はごみステーションの荒れている所は大体集合住宅で単身世帯の多いところであると感じている。集合住宅は個人で排出せずに、管理会社でまとめて分別してから出すようにとか、マンション住民にごみ出しルールの周知の強化をやったら良いのではと思う。どうしてもマンションの近くのごみステーションは荒れていることが多いと感じる。

委 員)

私の住んでいる町内会の使っているごみステーションは、折り畳みのできるサークルを使いネットをかけて、さらにブロックを置いて使っている。これによりカラスの被害はなくなったが、私の一番近いごみステーションは使用する件数が多く溢れることがある。ほかの町内会では蓋つきのアルミ製のステーションを3軒くらいで使っているのを見ることがある。それでステーションの数が多くなった。しかし、ごみステーションは荒らされず、私の町内会でも検討する必要があると話したことがある。そうするとごみステーションの数が増えることになり、清掃事業課と話し合う必要があるので、今はそれが検討課題となっている。それとマンションのごみ出しマナーが悪く文書を出してはいるのだが、誰が出したごみか分からないのでなかなか改善されない。ずっとやっているが本当に難しい。マンションは新築の時にアルミ製のごみステーションを作って貰っているが、排出日を守らないとか大きなものを無造作に置かれるなど、ルールを守ってもらうのは本当に難しい。

委 員)

やはり大家さんを通じてやってもらうしかないのではないか。

委 員)

やってもらっているがなかなか難しい。溢れているごみステーションを分割してアルミ製のステーションへの変更を検討している。

委 員)

ごみステーションの管理はすべて帯広市が行っているものと思っていて、自分が使っているのは誰が管理しているか分からない。ごみステーションについてのクレームについては聞いたことはない。しかし、ごみステーションに残っているごみを見かけることはあるので、分別されていないごみはあると感じる。それを見るとやはり子供より大人の方が分別の教育が必要だと思う。しかし、洗っていなくても回収されることがあるので、洗わなくても良いと思う人もいると思う。そのような人に十分な説明が必要と思う。

委 員)

集合住宅の収集を日々行っているのでマナーに関しては痛感している。それと外国人世帯が増えていて単身世帯、集合住宅よりも説明が難しい人たち、文化的な背景が違うので、これをどのように強化していくのかが清掃事業課のこれからのテーマになるのではと感じている。帯広市の宿泊税で一泊200円とかを取って年間3億くらいの予算が出来るようだが、オーバーツーリズムで街が汚れることに対してその予算をうまく生かして市役所の中で検討してみてはどうか。

会 長)

市内の学生にも留学生はたくさんおり、学生は皆単身世帯であり、いろいろ住民の皆さんには迷惑をかけているという印象を持った。私の住んでいる町内会では、金属製のごみステーションにすると良いという話があったが、コロナの時期に町内会の活動がほとんど出来なくなって、使わない予算を使って頑丈なごみステーションを整備し、かなり改善した。コロナの時期は過ぎて今では出来ないが町内会での資源集団回収などの奨励金をごみステーションの金属製

の物を設置するのに投資できないかなと感じた。もう一点はごみステーションに近い方は管理が大変だと聞いたが、善意に甘えるのではなく何か協力金などのインセンティブを付けていくべきなんじゃないかと思った。

会 長)

ほかに。

委 員)

リチウムイオン電池による発火事故が多く、その排出方法について高齢者に詳しく啓発を強化していただきたい。

会 長)

実際、どのように排出するのが良いのか。

事 務 局)

リチウムイオン電池であったり、それを内蔵されている製品だったり、J B R Cという組織があり、国内のメーカーであれば多くの企業が会員になっている。そういうものについては販売店にリチウムイオン電池とかをもって行って回収していただく。

事 務 局)

J B R C会員企業の充電電池は絶縁処理を行い、家電量販店かホームセンターに持っていくと無料で回収を行っている。しかし、中国製などのJ B R C会員ではない充電電池は家電量販店では引き取らない。それに関しては端子の部分にテープなどを貼り絶縁処理をして、2週間に一度の燃やさないごみの日に有害・危険ごみとして透明・半透明の袋に入れて出していただければ無料で回収を行っている。

事 務 局)

行政回収の場合は、燃やさない袋に入れるのではなく、別の袋で出していただく。

委 員)

以前に黄色い乾電池の回収袋を配布されていることがあったが、今はないのか。

事務局)

今はない。

委員)

乾電池とは別にするのか。

事務局)

燃やさないごみの袋は収集車の中に回収されるが、リチウムイオン電池は収集車の横に積んでいる箱に入れて、別に回収している。

会長)

全体を通して何か質問意見はないか。

委員)

資料で3Rとあるが、啓蒙するのは4Rの方が良いと思う。そもそもごみになるようなものを買わないとか受け取らないとかが大前提としてある。20年前に東京に住んでいた時に4Rで推進しており、4Rの方が積極的にごみを減らせるといった。また、資源プラスチックがアジアの国に輸出されていて、処理しきれなくて積み上げられている。それが結局海に流れているが、帯広市の集めたごみは最終的にどのように処理されているか把握しているか、それが適正に処理されているか。

事務局)

結論から言うとプラスチックなどの最終的な行方は分からない。リサイクルプラザでプラ製容器包装やペットボトルは中間処理をし、べール品にしてそのあと十勝圏複合事務組合で入札をして売っている。製品として売ってしまったらそのあとの行方は分からない。

委員)

リサイクルにもいろいろあるので、どのようにリサイクルされているのかは

わからないということか。

事務局)

同じようなプラ製品になるのが良いのだが。お金を出して買っている以上、それ以上の値段で買われるようにしていると思われる。

委員)

基本的には有価物で購入されており、全量リサイクルされている。破碎してペットボトルや新幹線のシートなどにリサイクルされている。

委員)

私が見たテレビの番組は産廃ということか。

委員)

産廃だと思われる。ここでは一般廃棄物の話なので、産廃だと委員の発言のような話はある。中国などに輸出してどうなったかは分からないと、それで海洋プラスチックになるという問題はある。

委員)

了解した。日本が排出原因の一つになっているのなら何とかならないかなと思ったところ。

委員)

産廃は日本で処理すると1キログラム当たり50円程度など処分費が高い。中国系の業者は安く処理すると輸出されていた。今はそれがバーゼル法で規制され出来なくなったが、以前はそのような事例が多かった。

会長)

以上で本日予定した議事はすべて終了した。事務局に進行をお返しする。

事務局)

ごみステーションの話において、いろいろなご意見を頂戴し、感謝する。皆さんのお話を伺い、プラスチック製容器包装があふれるとか飛んで行く、管理そ

のものの問題、ごみステーションは皆が利用するが、特定の人しか管理しない人がいるということに問題があるとの意見をいただいた。現在、負担軽減に向けて何ができるのかということで、対策を検討しており、委員の皆様にはごみ排出の現状について事前にお伺いさせていただいた。施策を進めるうえで市民の皆様の協力が必要であるため、啓発などの工夫をしているほか、パトロールしている職員が出向いてかたづけたり、トラブルがあれば仲介に入るなども行っている。また、先ほどのリチウムイオン充電電池の啓発の強化についても考えていく必要があると感じたところ。今後の審議会についても引き続きよろしくお願いする。

閉会